

「日本のコメ」は 世界の「勝ち筋」に なれるか。

2026
7.10
(金)

場所 東京農工大学 府中キャンパス



ファシリテーター



農工大
山中 晃徳 副学長
(J-PEAKS・連携強化担当)

「ハワイの陸稲」×「日本米のグローバル戦略」

2大学が示す衝撃の実例

「守り」から「攻め」へ

日本稲作の常識を覆す海外戦略

「環境保全」を「収益」に

トレードオフ克服のヒント

農工大
講演者



安達 俊輔 教授



田中 一生 客員教授

新潟大
講演者



山崎 将紀 教授



藤巻 義博 特任教授



宮本 託志 准教授



詳細情報は
こちら



東京農工大学

日本のコメはハワイの食料課題に貢献しうるか

研究概要

米国ハワイ州は、人口140万人に対して年間1,000万人の観光客を受け入れる、世界有数の観光地です。経済的に豊かな地域である一方で、食料供給基盤は脆弱であり、食料自給率はわずか15%にとどまっています。

ひとたび自然災害が発生すると、域外に大きく依存した供給体制は不安定となり、食料在庫は2週間で底をつくとされています。この問題を重視した現地政府は、近年、食料自給率の向上に力を入れています。

日本と同様の課題に直面する本地域に対して、私たちが貢献できることがあるのではないのでしょうか。また、そこで得られた知見は、日本の社会課題の解決にも資するのではないのでしょうか。本研究プロジェクトは、両地域の主食作物であるコメを題材とし、様々なステークホルダーを巻き込んで進める、壮大な社会実験です。

活動方針

ハワイにおける自然環境・農業インフラ・社会文化的背景に合わせた持続的な陸稲栽培を可能にする技術の確立を目指します。ハワイ州政府や日米の民間企業と連携し、生産物の高付加価値化とサプライチェーンの構築を推進します。多様な農業経営体が稲作に新規参入できるよう、それぞれの経営環境に即した技術支援も行います。さらに、多様なステークホルダーとの対話や科学的分析を通じて、地域社会に受容されやすい稲作システムを模索し、政策提言につなげます。



新潟大学

再現可能な農業モデル構築に向けた新潟大学iRICEの挑戦

研究概要

新潟大学では、『次世代型の稲作システム研究』を推進しています。

iRICEでは、「陸稲・乾田直播による省水・省力型新稲作法の開発」、「高温耐性・耐環境性品種コメの開発」、「水田メタン削減技術と測定器開発」、「デジタルMRVによる環境価値の可視化とデータ産業の創造」、「農業データ基盤による再現可能な農業モデル構築」を重点テーマとして、農学・工学・情報分野が連携した研究を展開しています。

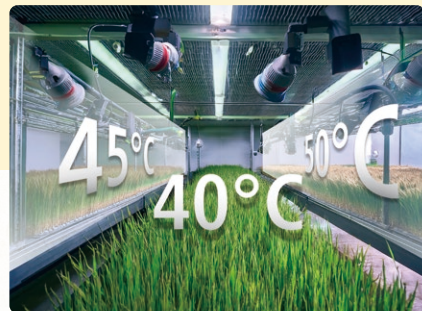
また、ベトナム等との国際共同研究を通じ、日本型稲作の国際展開や気候変動時代における食料安全保障への貢献を目指しています。

活動方針

新潟大学では、研究成果を社会実装へ接続する体制構築を重視しています。

その中核として、2026年4月に「コメと環境の国際イノベーション共創センター【iRICE】」を設置し、農学・工学・情報・社会連携・国際連携を横断的に統合する“社会実装司令塔”としてマネジメントを開始しています。

今後、産学官連携および国際連携を通じ、「再現可能な農業モデルの構築」、「気候変動対応型農業の社会実装」、「環境価値の可視化と新市場創造」、「日本型稲作の国際展開」を推進し、持続可能な農業モデルによる食料安全保障への貢献を目指しています。



タイムスケジュール

14:00~14:05 開会挨拶

14:05~14:45 東京農工大学の研究者プレゼン

14:45~14:50 休憩

14:50~15:20 新潟大学の研究者プレゼン

15:20~15:30 ディスカッションのための配置変換(休憩)

15:30~17:00 生産者の声を聞きながらディスカッション

17:00~17:05 閉会挨拶

17:30~19:00 懇親会(事前登録者のみ)

申し込みはこちら

